

きらりNet



作ってみよう、人気メニュー



学校給食で人気のあるメニューはたくさんありますが、その中からレシピを3つ紹介します。そのうち、2つは**カッター食**と**フレンダー食**用も掲載しました。さっそく、作って、おいしく食べましょう！

マカロニ カレーサラダ (4人分)

材料

- ・ロースハム……………4枚
- ・マカロニ……………50g
- ・にんじん……………中 1/3 本
- ・きゅうり……………1本
- ・ホールコーン缶…40g
- ・マヨネーズ……………大さじ4弱
- ・しょうゆ……………小さじ1弱
- ・カレー粉……………小さじ1/4
- ・塩、こしょう……………適宜



作り方

- ①ハムは短冊切りにする。にんじんはいちょうスライスして硬めにゆでる。きゅうりは薄く輪切りにして湯通しをして色鮮やかにする。
- ②マカロニは、表示時間より1分程度長めにゆで、水で冷やしてからザルにあげておく。
- ③①と②を調味料であえて、お好みで、塩、こしょうで味を整える。

カッター食・フレンダー食は…

- ①皮をむいたきゅうりとにんじんとマカロニを、少量のコンソメで煮る。
*コーンは使いません。
*コンソメの煮汁はフレンダー食で使います。
- ②やわらかくなったら、フードプロセッサで調味する。 **カッター食**
- ③②を裏ごしして、①のコンソメの煮汁でのばして、ミルサーでなめらかにする。 **フレンダー食**



ジャーマンポテト (4人分)

材料

- ・じゃがいも……………中3~4個(240g)
- ・ブロッコリー……………1/2 株 (160g)
- ・ウインナー……………120g
- ・プロセスチーズ…40g
- ・おろしにんにく…1かけ分
- ・塩、こしょう……………適宜
- ・オリーブ油……………適宜

作り方

- ①じゃがいもは一口大、チーズは5mm角に切る。ウインナーは斜めスライス。ブロッコリーは食べやすい大きさに切ってゆでておく。
- ②なべにオリーブ油を入れ、にんにく、ウインナーを中弱火で炒める。香りが立ってきたら、じゃがいもを入れて炒め、少量の水を入れ、ふたをして煮る。じゃがいもに火が通ったら、強火にして水分をとばす。
- ③コンソメとチーズを加え、なじんだらブロッコリーを入れて、塩、こしょうで味を整える。
- ④お好みで、仕上げにオリーブ油を少々加える。

たくさん作って、次の日にとろけるチーズをのせて焼くと美味！

たくさん作って、半分の量をカレー味にすると、2種類のサラダができますね！

カッター食・フレンダー食は…

- ①材料は切っておく。ウインナーは、皮をむき(皮なしウインナーでもよい)、斜めに切る。
- ②なべにオリーブ油を入れ、にんにくを炒める。香りが立ってきたら、ウインナーとじゃがいも、ブロッコリーを入れて、水をひたひたに入れ煮込む。
- ⑤やわらかくなったら、コンソメとチーズを加え、塩、こしょうで味を整える。
- ⑥フードプロセッサで、⑤をマッシュポテト風にする。 **カッター食**
- ⑦⑥を裏ごしして、ミルサーでなめらかにする。 **フレンダー食**



パリパリ漬け (4人分)

材料

- ・きゅうり……………1本
- ・にんじん……………中 1/3 本
- ・キャベツ……………中 1/4 個
- ・たくあん またはいぶりがっこ…40g~
- ・しょうが……………1かけ
- ・塩……………適宜
- ・薄口しょうゆ…適宜

作り方

- ①きゅうりは薄い輪切り、にんじんはせん切り、キャベツはザク切りにする。たくあんは、スライスしてからせん切りに、しょうがはせん切りか1かけ分のおろし汁にする。
- ②にんじんは硬めにゆで、キャベツときゅうりもザッとゆでる。
- ③大きめのポリ袋の材料を入れてもみ込み、なじませる。

たくあん・いぶりがっこの塩分により、塩・薄口しょうゆで味を調整してください。

「魔法の宿題プロジェクト」

～「魔法の宿題プロジェクト」とは～

「魔法のプロジェクト」は、学校生活に関わる様々な場面に困難のある子どもたちの学びを情報端末等テクノロジーで支援するためのプロジェクトです。東京大学先端科学技術研究センターとソフトバンクグループ、研究協力校によって進められています。ここでは、無料でダウンロードできるアプリを紹介します。(無料なので広告付きもありますが、iPad等で是非お試しください。)



ドロップシンボルメーカー
『おくるんです』

・タブレット用のコミュニケーションツールです。



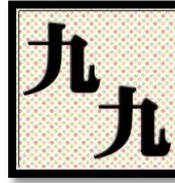
手書き共有カレンダー
『Palu』

・簡単に予定を書き込めるシンプルな連絡ボードです。



国語用スピーチアプリ
『3秒日記』

・「いつ」「どこで」など、短い作文の練習に最適です。



算数用かけ算練習アプリ
『九九トレーニング』

・答えから式を探す、姉妹アプリもあります。

教育専門監のコーナー 「ことは育てる指導～ことはの発達を考える」

「ヴィゴツキー (Vygotsky, L. S.) 発達の最近接領域」

「子どもはまず親や教師・仲間などに教えられたり、ちょっとしたヒントをもらったり、模倣をしたりしながら、新しい問題に対処するが、やがて自分だけでそれをやり遂げることができるようになってゆく。まったく解決不可能な水準と、独力で解決可能な水準の間に、子どもの発達の潜在領域である、他からの援助があれば解決できるという水準が必ずある。(発達の最近接領域)」

「思考や言語は、第一に社会的・文化的な発達において大人や自分より能力のある者との共同や、やりとりを通して達成され、続いてそれが独力でできるようになる。」このようにヴィゴツキーは「社会から個人へ」という方向性を「発達」と考えた。

「言語発達」におけるピアジェとヴィゴツキー

「先に頭の中で使うことが身につき、それからコミュニケーションに使うようになる。」というピアジェの「内→外」の言語発達。

「生まれたばかりの子どもは、頭の中で考えてから話をしていっているのではなく、わからないながらも他者とのコミュニケーションにより、外的な言語を獲得し、次第に頭の中で使えるようになる。」というヴィゴツキーの「外→内」の言語発達。

「ピアジェ (Piaget, J.) 思考発達段階説 感覚－運動期」

感覚－運動期とは、感覚を通し外界の物事をとらえ、その物に直接的に働きかけることなどの具体的な行動を通して外界を認識する時期。

第一段階 (0～1ヶ月)	生まれつき持った反射によって刺激に対して反応していく。
第二段階 (1～3ヶ月) 第一次循環反応	自分の身体部位に向けられた行動を連続的に繰り返す。
第三段階 (3～8ヶ月) 第二次循環反応	偶発的な対象操作を繰り返し、対象操作の結果どのように外界が動くかを把握する
第四段階 (8～12ヶ月)	具体的な行動を通して目的－手段関係を理解して使用。 対象の永続性 (object permanenncce) が成立。
第五段階 (12～18ヶ月) 第三次循環反応	手段を変化させることによって結果の違いを調べることができる。目的のためにいろいろと手段を試し、うまくいくものを調べる
第六段階 (18～24ヶ月)	目的－手段関係を表象し、ある目的と手段とのつながりの全体像をイメージできるようになる。新しい手段を発明。

*対象の永続性 (object permanence) とは、視界から消えた対象が存在し続けていると認識する能力。表象能力 (representation) の原始的形態となるとされている。

このように立場の異なる二人ですが、コミュニケーション評価と指導、支援の観点を考える上で大切な理論です。

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。

教頭 石川 純子 地域支援部 佐藤 忠浩

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail: kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018 (889) 8573 FAX：018 (889) 8575

「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

